

インド・ビハール州議会選挙について

ポイント① 国政与党が大きく議席を減らす

11月8日開票されたインド・ビハール州議会(243議席)選挙で、モディ首相率いる国政与党のBJP(インド人民党)が大きく議席を減らしました。州与党を中心とする3党連合が、議席数を61議席増の178へ大きく伸ばす一方、友党と合わせたBJPは、35議席減の58となりました。同州はインド全29州のなかで1人当たりの所得水準が最も低く、貧困層の不満の矛先がBJPに向けられつつあることを示しました。

2014年4～5月の総選挙で圧倒的な国民の支持を得て発足したモディ政権は、その後の4つの地方選挙で連戦連勝しました。しかしながら、今年2月に実施・開票が行なわれたデリー首都圏(州に相当)の議会選挙では、汚職の撲滅を掲げた新興の「庶民党」に思わぬ大敗を喫しました。今回の選挙は、BJPにとってこれに続く痛い結果となりました。

ポイント② 州議会が上院議員を選出

下院では単独過半数、連立政党を含めると約60%の議席を握るBJPですが、上院では単独で20%程度を占めるにすぎず、国政レベルでは、いわゆる「ねじれ」が生じています。上院(250議席)の任期は6年、2年ごとに3分の1ずつ改選されますが、大統領指名枠12議席を除く残りの議席は、各州の議会によって選出されることとなっています。このため、時間はかかるものの、州議会選挙の結果が最終的には上院の勢力分布に反映されることとなり、「ねじれ」解消の行方の観点からも、州議会選挙の結果が注目されています。

ポイント③ 金融市場の反応は限定的

9日の金融市場では、インドルピーは対米ドルで前週末比0.9%のルピー安、対円では同0.3%のルピー高となりました。また、インド株式は同0.5%下落、インドルピー建て10年国債利回りは同0.04%上昇(価格は下落)しました。事前にBJPの苦戦が予想されていたこともあり、市場の反応は限定的なものとなりました。

今回の選挙結果は、BJPにとって痛手ではあるものの、これによりBJPが危機感を強め、長い目で見れば改革推進につながることを期待する市場参加者もいます。今後、2017年初めまで主要な州議会選挙はなく、改革を実践し、成果を示すための時間がBJPに与えられることとなります。

重要
イベント

11月12日	鉱工業生産指数(9月)
11月12日	消費者物価指数(10月)
11月30日	GDP(7-9月期)
12月1日	金融政策発表

図1：インドルピーの推移



図2：インド株式(S&P/BSE SENSEX)の推移

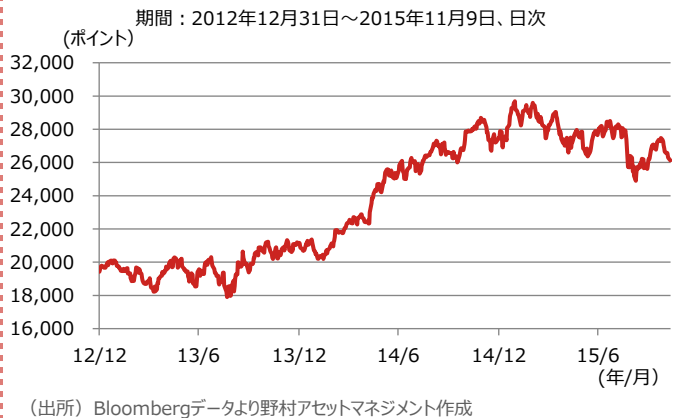


図3：インド10年国債(インドルピー建て) 利回りの推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。